近代彦根港湾の改修計画の変遷

立命館大学理工学部　学生会員　○露木　誠
立命館大学理工学部　正 会 員　　林　倫子
立命館大学理工学部　正 会 員　大窪　健之

1　はじめに

彦根港湾の改修計画は、大正７年に当時の滋賀県知事森正隆が交通網整備の一環として港湾改修を推したことから始まる（表－１）。当時、汽船が発着できる港は琵琶湖岸の長曽根にしかなく、土砂堆積にも悩まされていたため、「東海道線彦根駅を巨る約５町の地点彦根町及び松原村境における位置に船溜まりを築設し琵琶湖より大体現水路のより延長 650 間、底幅 10 間の運河を改修し船溜まりに達せしめ水陸運輸の連絡を便ならしむる」[1] という意図で計画されたという。しかし港湾と船溜りの位置の検討過程や、実施計画に至るまでの計画案の変遷ついては知られていない。そこで本研究では、滋賀県行政文書をもとに、大正期の彦根港湾改修計画の変遷を明らかにする。

表-１　彦根港湾改修の流れ [2) 3)]

大正7年	交通機関整備の一環として知事が彦根港改修を提案
大正8年	通常県会で彦根港湾改修案が可決
大正10年	港湾改修としては県下最大なので、用地買収に手間取り着工遅れる
大正11年	港湾改修起工、まずは船溜りの岸壁・護岸から着手
大正13年	予算が増額される、航路も着手し始める
大正15年	風波・雪の影響で工事が遅れ、松原橋の設計変更もしたのでさらに遅れる
昭和2年	港湾竣工

2　二つの計画案

大正 12 年 4 月 6 日『彦根港湾埋築地之件』[4] は、大正 11 年に港湾工営所の田口技手より内務省へ提出済の港湾計画平面図の訂正を願い出たもので、添付の「松原港湾改修計画地附近平面略図」は、実施の平面計画とは異なる 2 種の計画平面図からなる。またこれらの平面図と同内容の青焼図面が同封されており、裏にそれぞれ「松原旧(図-２)」「松原新(図-４)」と記されていることから、「松原旧」が従前に提出された計画案であったと考えられる。なお「松原新」の平面図については、運河工事による耕地面積減少を解決するために松原村が大正８年に県へ提出した「発第 338 号松原内湖干拓工事許可稟請」[5] に添付の平面図と酷似しており、当時から検討されていた計画案であったと考えられる。

「松原旧」の計画案の位置づけは不明であるが、これらは共に初期に検討された計画案であるとみられる。2 案の航路入り口付近は、線形は若干異なるものの、実施計画と同様に既存の屈折した水路を利用しており、港湾供用後すぐ船の航行に支障があると指摘されている [6]。これは、航路入り口付近が既に市街化されていたためと推測される。

図-１　彦根案内大正６年刊より「彦根市街図」

（１）「松原旧」の平面計画案

図-２　大正 11 年松原港湾修築地附近平面略図(松原旧)

水路が松原内湖へ広がる部分で北へ折れ、船溜りは近世より御舟入があり糀屋が多く立ち並んでいた彦根町字外船の北東の田地に位置している。既存の外濠や

キーワード：滋賀県彦根市、港湾改修計画、彦根港、外濠
連絡先：〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1　立命館大学理工学研究科歴史都市防災研究室 TEL077-561-3360

船着き場は保存され、それに隣接するように田地を掘削して近代港湾施設を建設する計画であったことがわかる。

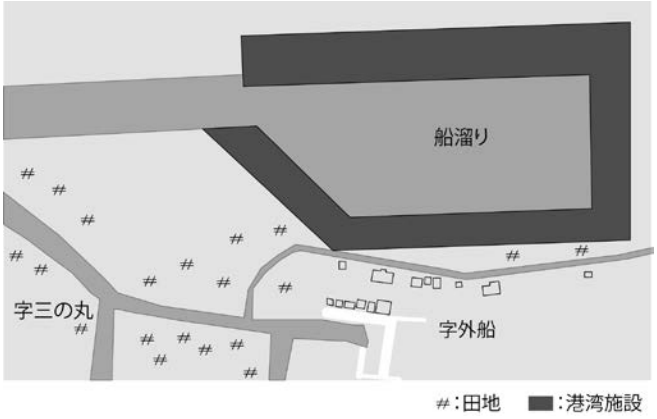

図-3　「松原旧」船溜り拡大図

（2）「松原新」の平面計画案

図-4 大正 12 年松原港湾修築地附近平面略図(松原新)

三の丸土地の３つの島を掘削することで、琵琶湖から続く水路をより直線に近づけている。外船町の御舟入や外濠、船着き場はそのまま保存されるが、船溜りを囲む公共物揚場が外船町の一部に重なるように計画されている。このことから、「松原旧」よりは航路が直線に近く舟溜りが市街地に近いため、近代港湾としての利便性が高い計画であると言えるが、従来の水系に

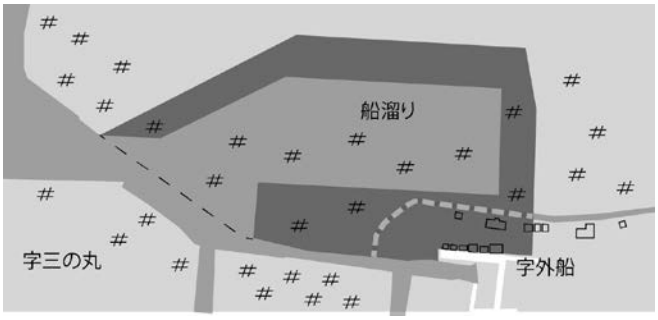

図-5　「松原新」船溜り拡大図

大きな改変を加える計画ではなく、依然として田地部分の大幅な掘削が必要な案であったことがわかる。

3　実施計画

図-6は「土発第 42 号　彦根港湾改修工事に伴う松原内湖の一部埋立の件　別紙命令書大正 12 年 3 月 21 日」に添付されていた実施計画の平面図である。2 章で紹介した 2 つの計画案とは異なり、船溜りまで続く水路が完全に直線となり、船溜りは既存の外濠の位置に設けられている。このため外船町の御舟入は完全に埋め立てられ、港湾施設の一部に吸収される。

図-6　土発第 42 号　別紙命令書

4　まとめ

2 つの計画案と実施計画の大きな違いは、船溜りの位置にある。舟溜のために松原村の田地を大きく掘削し、既存の外濠にはほとんど改変を加えない予定であった二つの計画案に対し、実施計画は彦根城の外濠に大きな改変を加えている。この変更によって、より船舶が航行しやすく、掘削コストを減らし、より市街地に近い位置に港湾を建設することができるようになったものと推測される。

ただし本研究においては、計画案変更のいきさつや理由については推測の域を出ていなく、更に調査が必要である。今後の研究課題としたい。

[参考文献]
1) 彦根港湾改良工事に伴う内湖埋立に関する事業方法書
2) 彦根市史編さん委員会 : 新修彦根市史第３巻 p.532, 2009
3) 彦根港湾改修工事に伴う内湖埋立に関する件
4) 彦根港湾埋築地の件　大正 12 年 4 月 6 日
5) 発第 338 号松原内湖干拓工事許可稟請　大正 8 年 12 月 24 日
6) 大阪朝日新聞京都附録　昭和 2 年 11 月 21 日